

日本頭蓋健診治療研究会・学術集会

第 11 回

日本頭蓋健診治療研究会・学術集会

抄録集

大会長 吉田 丈俊

会 期 2024 年 9 月 21 日 (土)

会 場 富山県民会館

第 11 回日本頭蓋健診治療研究会・学術集会

第 11 回日本頭蓋健診治療研究会・学術集会

大会長 吉田 丈俊

近年、乳児の頭蓋変形に対する意識が高まってきており、その重要性がますます認識されています。そのような背景を踏まえて今回は「乳児の頭蓋変形予防」と「頭部手術後の予防変形」という二つの重要なテーマを取り上げます。今回の研究会では、これらのテーマに関する最新の研究成果や治療法について議論し、知識を共有し、さらなる進歩を目指します。また、今回からは一般演題も募集し、幅広い視点からの議論を促進します。

ハイブリッド形式で web からの参加も可能です。皆様のご協力と積極的な参加を心よりお願い申し上げます。

1. 会 期

2024 年 9 月 21 日 (土)

2. 会 場

富山県民会館 (ハイブリッド開催)

3. テーマ

「頭の変形予防を考える」

4. 大会長

富山大学附属病院 周産母子センター センター長 教授 吉田丈俊

プログラム

14:00 大会長挨拶

14:05 基調講演 「広げよう：位置的頭蓋変形予防、伝えよう：正しい頭蓋変形治療」

座長 吉田 丈俊 富山大学附属病院 周産母子センター センター長 教授
演者 細野 茂春 自治医科大学附属さいたま医療センター 副センター長
小児科・周産期科 教授

一般演題

座長 中張 惇子 自治医科大学附属さいたま医療センター 周産期科新生児部門
猪又 智実 富山大学附属病院 周産母子センター

14:45 「妊娠後期および分娩時の胎位・胎向が乳児の向きぐせに与える影響について：乳児1ヶ月健診アンケート結果からの考察」

井本 広済 川島産婦人科クリニック、前0歳からの頭のかたちクリニック
関西院

14:55 「位置的頭蓋変形の程度には季節性を認める」

西巻 滋 0歳からの頭のかたちクリニック

15:05 「位置的斜頭の早期予防と乳児股関節脱臼」

朝貝 芳美 信濃医療福祉センター 整形外科

15:15 「乳幼児の頭蓋変形に関する実態調査：五島プロジェクト」

本多 由依 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻

15:25 「NICU入院中に右斜頭に対する理学療法が奏功した1例」

秋山めぐみ 自治医科大学附属さいたま医療センター 小児科

15:35 「数理シミュレーションで見る位置的頭蓋変形の経時変化およびヘルメット矯正療法の効果」

梶田 大樹 慶應義塾大学医学部 形成外科、0歳からの頭のかたちクリニック

15:45 休憩

シンポジウム 「頭部手術後のヘルメット矯正治療」

座長 赤井 卓也 富山大学 脳神経外科 准教授

16:00 「頭蓋骨縫合早期癒合症に対する縫合切除術後のヘルメット矯正療法の経験」
小熊 啓文 自治医科大学とちぎ子ども医療センター 小児脳神経外科

16:10 「頭蓋開溝術後ヘルメット治療の着目点と注意点」
長倉 正宗 あいち小児保健医療総合センター 脳神経外科

16:20 「当院における頭部手術後のヘルメット治療初期治療経験」
宮入 洋祐 長野県立こども病院 脳神経外科

16:30 「経時的な外科的治療計画上における、頭蓋矯正ヘルメット治療の介入時期とその役割」
藍原 康雄 東京女子医科大学 脳神経外科

16:40 総合討論

17:00 大会長、次期大会長、代表理事挨拶

基調講演「広げよう：位置的頭蓋変形予防、 伝えよう：正しい頭蓋変形治療」

細野 茂春

自治医科大学附属さいたま医療センター 小児科・周産期科

ソーシャルメディアの普及で位置的頭蓋変形に対する情報発信が数多く見受けられるが、「玉石混淆」を象徴するものと言えるかもしれない。1992年からはじまった Back to sleep キャンペーン以降、斜頭症の児が急増し、欧米では研究が進んだ。2016年には Nelson Textbook of Pediatrics 第20版に Positional plagiocephaly が初めて取り上げられ、明確に Watch & Wait は推奨されず変形が観察されたら直ちに最低限リポジショニングと理学療法を導入すべきとしている。一方、日本の小児・新生児の教科書には位置的斜頭症は今だ未収載である。そのため情報の混乱は、本来正確な情報を伝えるべき医療従事者が正しい知識を持ち合わせないこともその一旦を担っていると考えられる。位置的頭蓋変形は月齢と共に軽快することは間違いないがご両親が期待する形にどこまで近づくかはその時点での頭蓋変形の程度、生活習慣と頭囲発育に依存する。頭蓋変形予防および改善治療としてリポジショニングや tummy time を指導することによりヘルメット矯正療法の適応である重度・中等度の斜頭症の頻度を減らすことが期待出来る。本講演ではリポジショニングとタミータイムの実際とヘルメット矯正療法について解説する。

一般演題

1. 妊娠後期および分娩時の胎位・胎向が乳児の向きぐせに与える影響について ：乳児1ヶ月健診アンケート結果からの考察

井本 広済^{1,2}、野村 裕¹

(1)川島産婦人科クリニック、(2)前0歳からの頭のかたちクリニック関西院

2023年4月から1年間で約1000人の初診患者と約500人のヘルメット治療を経験した。乳幼児の向きぐせの有無が位置的頭蓋変形症の主たる原因であることは明らかである。産科退院直後からの向きぐせを訴える親御さんも意外に多いが胎児期からの関連は不詳である。そこで非常勤で在籍する産科クリニックに協力を依頼し2023年9月より乳児1ヶ月健診の際に頭の形や向きぐせについてのアンケート調査を行った。その結果を基に妊娠後期および分娩時の胎位胎向を確認し生後の向きぐせとの関連を検討した。小児科に繋ぐ立ち位置と産科が担う頭蓋変形予防の早期役割の可能性についても考察したい。

2. 位置的頭蓋変形の程度には季節性を認める

西巻 滋、小室 宏昭、草川 功、梶田 大樹、阪本 浩一朗、工藤 裕美、広川 大輔、藤井 貴子、田中 一郎

0歳からの頭のかたちクリニック

斜頭症と診断された生後3~4か月の1,283例を対象として、誕生月ごとに頭蓋変形の程度を検討した。後頭部左右対称率は誕生月が3月で80.1%と低く、9月で82.3%と高かった。頭蓋変形の程度と紫外線量との関係を考察する。

3. 位置的斜頭の早期予防と乳児股関節脱臼

朝貝 芳美

信濃医療福祉センター 整形外科

向き癖や股関節開排制限の早期（生後1か月頃まで）予防指導により、超音波画像で亜脱臼が改善することが明らかになった。位置的斜頭だけでなく、将来の変形性股関節症を減少させる可能性があり、早期予防指導の重要性が高まっている。

4. 乳幼児の頭蓋変形に関する実態調査：五島プロジェクト

本多 由依¹、神徳 備子²、江藤 宏美²、細野 茂春³

(1)長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻、(2)長崎大学生命医科学域、(3)自治医科大学附属さいたま医療センター 周産期科新生児部門

本研究の目的は、4 か月・1 歳半・3 歳半児を対象に、我が国における頭蓋変形の発生頻度や原因を明らかにすることである。対象は、4 か月児 169 名、1 歳半児 152 名、3 歳半児 109 名（6 月末現在）の結果を示す。

5. NICU 入院中に右斜頭に対する理学療法が奏功した 1 例

秋山 めぐみ¹⁻²、中張 惇子³、細野 茂春³

(1)自治医科大学附属さいたま医療センター 小児科、(2)自治医科大学 小児科、(3)自治医科大学附属さいたま医療センター 周産期科新生児部門

小腸閉鎖に対して腸瘻増設し、長期の仰臥位管理を行った 2 か月男児。

右頸静脈 CV カテーテル留置による斜頸を合併し右斜頭が生じた。NICU で頭位変換、Tummy time を行い、視診での頭蓋変形率がクラス 3 からクラス 2 まで改善した症例を報告する。

6. 数理シミュレーションで見る位置的頭蓋変形の経時変化およびヘルメット矯正療法の効果

梶田 大樹

慶應義塾大学医学部 形成外科、0 歳からの頭のかたちクリニック

位置的頭蓋変形の発生機序や頭蓋矯正療法の原理を可視化して理解を促す目的で、頭蓋の成長を数理的にシミュレーションするウェブアプリを作成した。低月齢時に変形が進行し、頭蓋矯正によって改善が加速される様子が再現された。

シンポジウム「頭部手術後のヘルメット矯正治療」

1. 頭蓋骨縫合早期癒合症に対する縫合切除術後のヘルメット矯正療法の経験

小熊 啓文、五味 玲

自治医科大学とちぎ子ども医療センター 小児脳神経外科

2021年6月から2024年6月まで頭蓋骨縫合早期癒合症に対する縫合切除+ヘルメット矯正療法を5例施行した。手術時年齢2-5か月（平均4か月）。矢状縫合2例、右冠状縫合1例、両側冠状縫合+左ラムダ縫合1例、矢状縫合+両側ラムダ縫合1例である。術後観察期間が1か月～2年半と短期間だが、手術合併症もなく追加の拡大手術も必要としていない。5症例に文献的考察を加えて報告する。

2. 頭蓋開溝術後ヘルメット治療の着目点と注意点

長倉 正宗、苗代 朋樹、栗本 路弘、加藤 美穂子

あいち小児保健医療総合センター 脳神経外科

術後ヘルメット治療(H法)の有効性に関する報告は多い。一方、経過中に急速な再癒合傾向や形態改善の限界、頭囲拡大の制限を危惧する症例を認める。自験例から我々が考えるH法の着目点と注意点について報告する。

3. 当院における頭部手術後のヘルメット治療初期治療経験

宮入 洋祐、千葉 晃裕

長野県立こども病院 脳神経外科

当院では2021年4月より頭部手術後のヘルメット矯正治療を開始した。2024年7月までの症例は12例で、頭蓋縫合早期癒合症の術後10例、V-Pシャント術後の頭蓋変形治療2例であった。前者の癒合縫合は矢状縫合5例、両側冠状縫合3例、多縫合癒合2例であった。症候群性は3例であった。初期治療における問題と治療効果について考察する。

4. 経時的な外科的治療計画上における、頭蓋矯正ヘルメット治療の介入時期とその役割

藍原 康雄、 千葉 謙太郎
東京女子医科大学 脳神経外科

当施設における、原疾患（頭蓋骨縫合早期癒合症、水頭症、斜頸、股関節脱臼、内反足など）に対する外科的治療の前後に生じる、頭蓋顔面顎変形症に対する頭蓋矯正ヘルメット治療の適応や介入時期について共有する。